

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\*188cm 望遠鏡設置のサイトテストに使われた 10cm 望遠鏡の写真を発見**

天文情報センター・アーカイブ室では国立天文台に残された写真乾板の整理を行っている。旧図書館に保管されている天体写真乾板については S 君が整理を行っており、この整理の中で天体写真以外の雑乾板について筆者が引き受けデジタルデータとして取り込むことを進めている。今回は写真乾板の箱「雑 BOX-⑥」と書かれた乾板箱に入っていた写真乾板 7 枚の内の 6 枚についての報告である。写真 1 が入っていた箱の写真である。

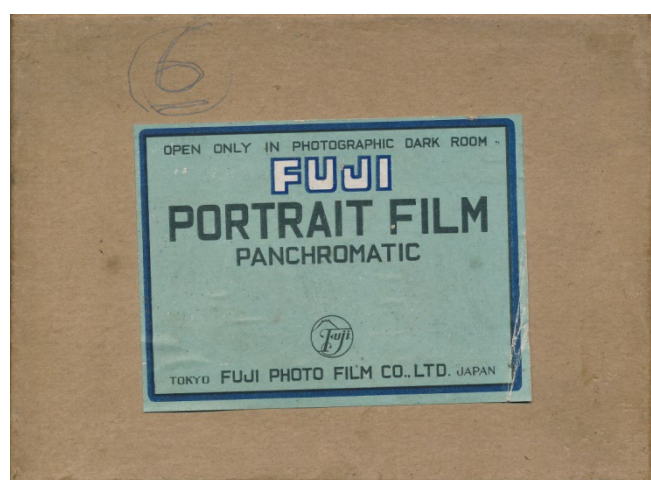


写真 1 雑 BOX-⑥の箱

この雑 BOX-⑥に入っていた残りの 1 枚の写真は、アーカイブ室新聞第 533 号に「萩原雄祐の文化勲章受章祝賀会記念写真発見」(2011年9月27日)として書いたものである。その時は、萩原雄祐文化勲章祝賀会記念写真ということに目を奪われ、他の写真に注意が行かなかったが、今眺めてみると、この 6 枚の写真も非常に重要な写真であった。写真 2 が 7 枚の写真のサムネイルである。

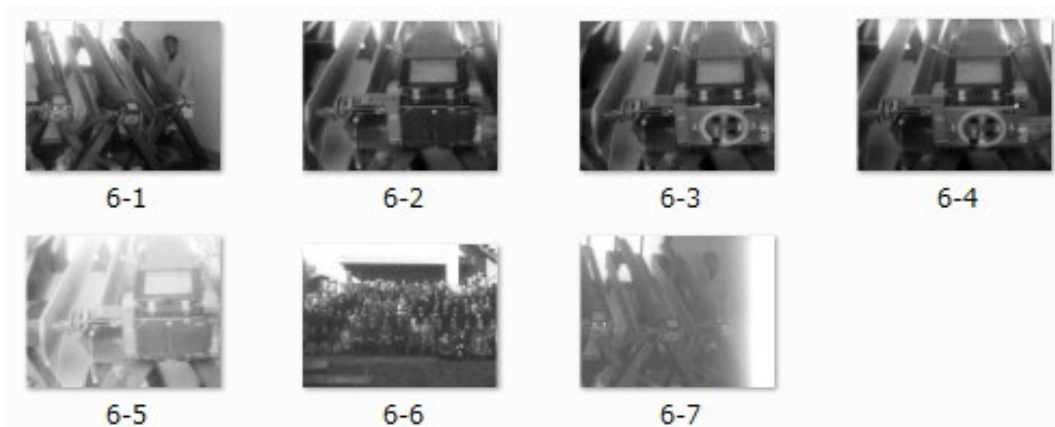


写真 2 雑 BOX-⑥に入っていた写真のサムネイル

サムネイルの写真 6-1 が写真 3 である。



写真 3 188cm 望遠鏡のサイトテスト 10cm 望遠鏡

写真 3 の 3 本の望遠鏡は 1960 年（昭和 35 年）に開所した東京天文台岡山天体物理観測所に設置された 188cm 反射望遠鏡の建設場所を探すサイトテストに用いられた口径 10cm、焦点距離 150cm の 3 本の望遠鏡と思われる。

この写真 3 に写っている人物は、若い頃の香西洋樹氏に間違いない。この 3 本の望遠鏡の 1 本は現在国立天文台構内の東京大学理学部天文学教育研究センター内の 30cm 望遠鏡ドームの望遠鏡のファインダーとして使われ（写真 4）、1 本は九州大学の坂上務氏に譲られたと伝えられている（香西洋樹氏談）。残りの 1 本は行方不明である。

写真 3 の望遠鏡は北極に向けて設置できる角度に架台がつくられている。188cm 望遠鏡のためにサイト調査が行われたのは、1) 栗ガ嶽（静岡県：標高 430m）、2) 遥照山（岡山県：標高 400m）、3) 杖突峠（長野県：標高 1200m）の 3 箇所であり、多少北緯が違っていただろうが、シーングテストで北極星に向けるくらいならそれほどの精度でつくる必要はなかったと思われる。

古い乾板の整理をしている筆者の元には、188cm 望遠鏡のためのサイトテストの乾板が集められ、デジタルデータとしてアーカイブされている。これらについてはすでにアーカイブ室新聞第 79 号に「1956 年の 188cm 反射望遠鏡サイトテスト（星像テスト）乾板発見」（2008 年 10 月 22 日）という記事が書いてある。

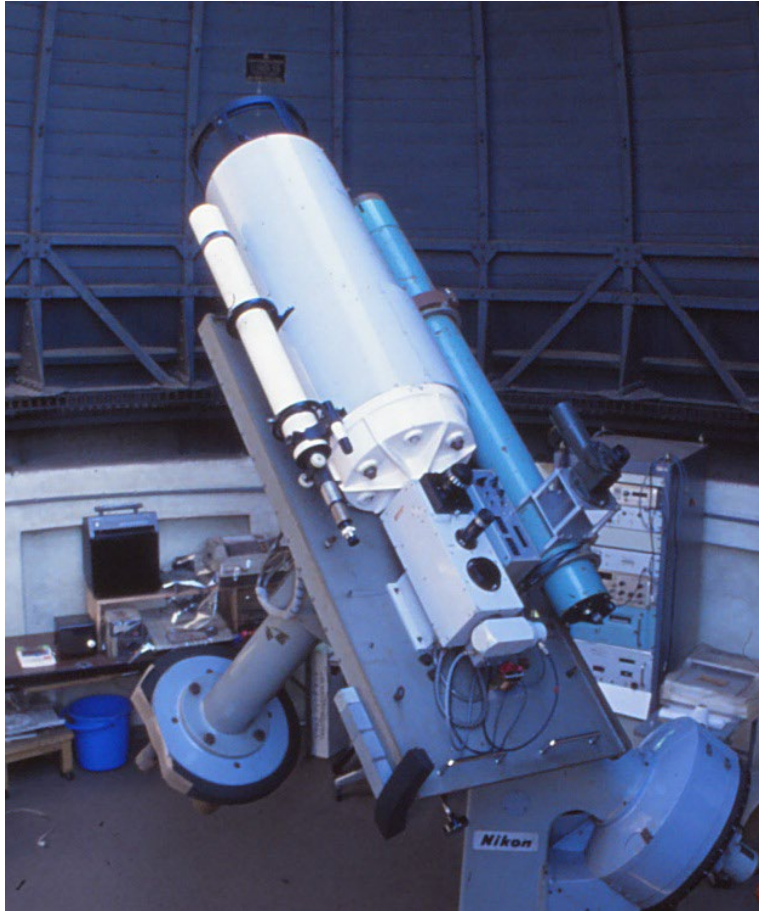


写真4 青色のファインダーが 10cm 望遠鏡

筆者が知っていたサイトテストに使われた 10cm 望遠鏡の写真は、岡山天体物理観測所が開所した際のパフレットに掲載されていた写真5の望遠鏡である。この写真5の望遠鏡



写真5 サイト調査を県知事が視察した写真

と写真 3 の望遠鏡の架台は全く違ったものであるが、写真 5 の望遠鏡は当時の岡山県知事がサイト調査を視察に訪れた際の写真であるから、観望用の経緯台に載せ替えたのだと思われる。あるいは観望用の別の望遠鏡だったかもしれない。調査が行われた遥照山という山は瀬戸内海を見はらす景勝地であった。

サイト調査のシーングテストの周極星野が写真 6 である。



写真 6 シーングテストの周極星野



写真 7 乾板を送りながら撮影したもの



写真 7 は、シーングテストのために写真乾板を送りながら撮影したもので、その送り機構がサムネイルの 6-1、写真 8 である。

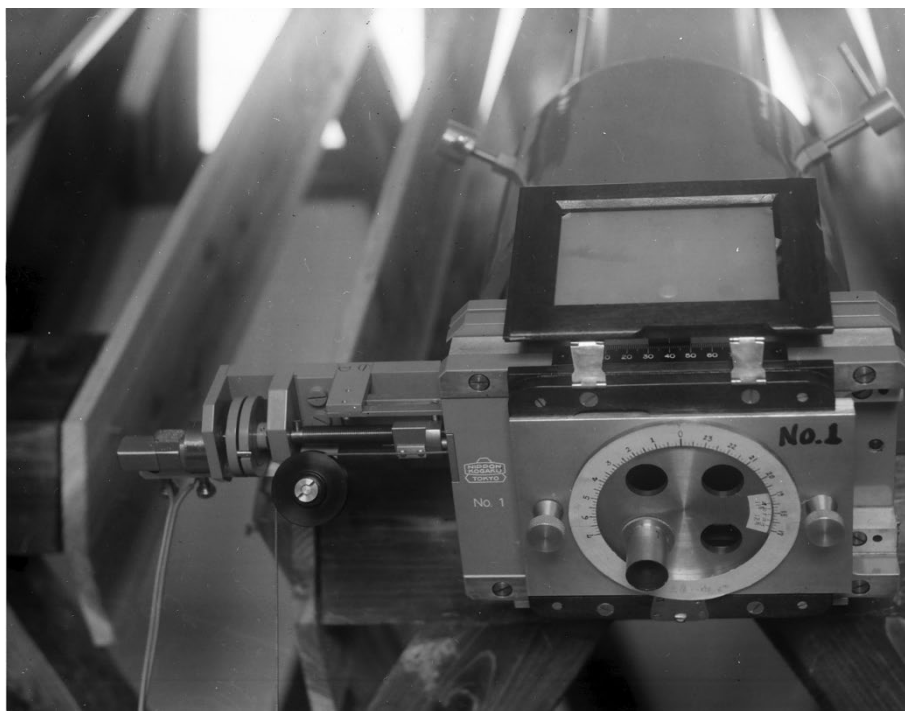


写真 8 サイトテスト用望遠鏡の乾板送り機構

188cm 望遠鏡のサイトテストを行った乾板はたくさん残っているが、調査の現場の写真、望遠鏡の写真は発見されていない。おそらく調査員の私的な写真となったものと思われる。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)